

# 平成28年度第1回「墨田区子ども・子育て会議」 「評価指標検証ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年4月21日（木）午後6時30分～8時00分  
会場：墨田区役所 122 会議室

## 次 第

### 1 開会

### 2 議題

議 題	資料
(1) 評価指標検証ワーキンググループの目的について	資料1
(2) 検討課題について	資料2、3

### 3 閉会

## 配布資料

- 資料1 「評価指標検証ワーキンググループ」の概要  
資料2 「評価指標検証ワーキンググループ」における検討課題  
資料3 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」の見直しのためのアンケート調査項目からみられるヒアリング調査に必要な内容

## 出席者(敬称略)

### 委員

- 西島 由美（にしじま小児科院長）  
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）  
熱田 美帆（公募）  
小林 佳香（公募）  
荘司 美幸（公募）  
佐藤 摩耶子（公募）  
青塚 史子（八広保育園長）

### < 欠席委員 >

- 近藤 ゆき江（八広幼稚園長）  
木村 律子（公募）  
陳 晨（公募）  
関 舞衣子（公募）

### < 傍聴 >

なし

部課長出席者

浮田 康宏（子育て支援課長）

事務局出席者（検討チーム含む）

岩佐、田村、酒井、土井

事務局（株名豊）

糸魚川

## 2 議題

### (1) 評価指標検証ワーキンググループの目的等について

事務局	（資料1を説明）
-----	----------

### (2) 検討課題について

事務局	（資料2を説明）
事務局	（調査対象者から補足説明）
委員	前回の会議の検討課題で、区として何を聞きたいか示してほしいとしていたが、それはどこに示されているのか。
事務局 (名豊)	（資料3を説明）
委員	現計画の5つの目標に基づき整理したということはわかりやすい。その上で、区として何を聞きたいのか。
委員	コンサルからの提案は、ここは抜けていますね、ということで、そこをどう考えるか。
事務局	前回調査で聞き取れなかった部分は、深く掘り下げるためにヒアリング調査、インタビューを実施したらどうかという提案を受けたので、事務局としてもそうしていこうと考えている。
委員	発達障害というのは病名なので、発達に障害があるわけではない。身体障害のようにいるんな障害があるので、小さい子どもよりもむしろ学校に行ってからの人たちの方が、困難度合いがわかるのではないかと。また、特別支援学級などに通わせている保護者などに聞いてみてはどうか。
事務局	調査対象については私どももどこまで、どのように絞ればよいのかは決めきれてないように思っている。
委員	中学生なのか高校生なのか大学生なのかというのを決めてしまって、その選び方のひとつの柱としては障がいのある子どもと親御さんなどと決めていった方がいいのではないかと。また、本人にも聞きたいところもある。
事務局	基本的にはこの調査については保護者の方をお願いする部分が多いかと思う。
委員	区の方で就学相談をやっていると思うが、その対象者とかにヒアリングしてみてもどうか。

事務局	今この場で具体的対象まで決めるというのは難しいので、調査実施までに固めておきたい。
委員	先ほどコンサルから説明があった母子保健は少し違うのではないかと思う。
委員	話は変わるが、子育て関係団体にヒアリングをするという提案があったが、個人的に面白いと思う。保育園や幼稚園の先生や、小学校の教員などそういった団体に調査をするというのがわかりやすく、すぐできそうな方法ではないか。
委員	団体の対象は、最近、株式会社が学童や保育園をつくっているがそういったところが対象か。そのような団体がネットワークというのはあまり考えづらい。それともNPOに話を聞くのか。
委員	保育園で今どんな問題があるのか調査ができれば良いのではないかと思った。困っていること、こんな親御さんが増えているとか、最近の傾向とか、そうした情報をうまく先生方から拾い上げられると良いのではないか。
委員	公立の保育園・幼稚園に通わせている親御さんはみんな良くしようとしているイメージがあるが、利益を追及する会社は、ネットワークは逆に障害になるのではないか。一般的な親御さんたちが、公立の保育園だろうが、株式会社だろうが、同じイメージに見えているのか知りたい。業者の方々がどんな思いで仕事しているのか気になる。
委員	私はどちらかと言えば区立や認可の保育園などに聞くのかと思っていた。親御さんが保育時間を延長してほしいとか、どこかへ遠足に連れて行ってほしいとか、英語を教えてほしいなどニーズがあったりするのではないか。
委員	ニーズは保護者の方から聞いているので同じなのではないか。
委員	アンケート調査は、自分の子どもはどうなるかの個々のニーズではないか。墨田区の子育てがどうなるのかというもう少し引いたところで知りたい。
委員	それならば、なおさら一般の人だけではなく、保育園などの専門家にも話を聞くべきではないか。
委員	私の子どもは3年生で学童に入れなかったが、区内の学童を探していて、スカイツリーや英語の学童もあったのだが、実はそうした情報を知っている母親はあまりいなかったりする。ニーズに対して実際いくと求めていたものじゃないというか、ネットで探していざ行ってみたら対象が違っていたなど。区の体制ができていても、母親たちは把握していない現状もある。個々のニーズというのはいっぱいありすぎて、先生に聞くのも一つの手だが、広すぎるのではないか。
委員	資料3にある「子育て家庭の視点に立った情報の発信」というのはどうか。発信といっても、本人が何を知りたいかわかっていない。だからワンストップ方式で困ったらここへ行くように教えるなど対応ができるのではないか。
委員	孤立している母親でもネットで墨田区の子どものクラブであったり、子育てに関する情報を調べたりすることができるようなサイトがあったらよいのではないか。
委員	「困ったことはないですか」のような形で設問して聞いて欲しい。
事務局 (名豊)	実際のニーズというものは時代とともに変わってきているが、子どもに対しての不安というものは変わらない。今回のヒアリングで客観的な立場で意見が言える方に調査をし、今の墨田区の親が、子どもがどう変わっているのが把握できると計画の見直しに有効に使えるのではないかと思う。

委員	関係団体とはどういったものか。
事務局 (名豊)	NPOなどを想定している。
委員	例えばPTAでも、子ども会の意見を聞いてもでもよいと思う。今は働いている親御さんが増えているので、PTAには入っていても子ども会には入っていない方がいらっしゃる。そうすると地域の教育力というものが落ちていき、町会でも若いお父さん、お母さんもいなくなってしまう。
委員	保護者と子どもに近いところに聞くのがいいのではないかと思う。NPOなどは理念があって活動しているもので、常に親御さんの側についているものではない。
事務局	今回議論したいのは、アンケートで聞けないようなインタビューをどうするかというところで、私を感じるころでは障害のあるご家庭に直接話を聞くということだと思っています。ただし、集団で聞くと最初の意見に引っ張られてしまうので、個々に聞いたほうがよいのではないかと思っている。
委員	一対一では意見は言わない。集団で聞いても、同じ意見ばかりに片寄らないように一言ずつ違うことを発言するようにお願いすれば良いことではないか。また、知り合いを2、3人ずついろんな施設から呼ぶと発言がしやすくなるのではないかと思う。先ほど学童保育やPTAなどが挙がっていたが、一同に集めて言いたいことを言ってもらってもよいと思う。保護者からではなくて、子どもを見ている人が感じている意見が必要ではないかと思う。
事務局	では、障害のある家庭のインタビューとPTAや学童の指導員へのヒアリングで。やり方もご提示していただいたが、グループ形式ということによるしいか。
委員	その2つだけ1回ずつ座談会のようにやっていく形でいいのではないか。特別支援級というものは元々そんなにないので、各々2、3人で一同介してやっていくのでよいのではないか。学校側にはだれが何を言ったか言わないようにする。
委員	中学生、高校生に聞きたいことはないか。5年後の将来像というのは、高校生からすれば働いているかもしれない。
委員	同じ中学校出身でも、他の地域の高校に通っている子に話を聞くと面白いかもしれない。
委員	墨田区の学校では当たり前だったことが、他の区では進んでいたりすることがある。
委員	どこを選ぶかということ。南北で選ぶとか。
委員	高校生でも、卒業したら働く子もいるかもしれないし、大学に進学する子がいるかもしれないので話がかみ合うのだろうか。2年生、3年生でそろえた方がよいのではないか。
事務局	高校生、PTA、学童保育、そして障害者と意見があったが、どう抽出するかは親会議で検討する。他にはどうか。
委員	お母さんは子どもが小学生になると、見送りができないし、学校で何があったか、保育園や幼稚園のときのように聞けない。お母さんは子どもが見えないところに行くことがとても心配になるし、小学校にあがる時など、変わり目には不安が募りやすく、お母さんから話を聞くといろんな話が聞けるので、節目のときに話をもっと聞いてみたい。
委員	不安な話を聞いてどうするのか。個別のカウンセリングになるのではないか。
委員	たくさんある不安の中の1つだから、そういうものもまとめて「いつ、どういう人に相談したか」を質問すれば良い。逆に困った時にここに行けばというようなものを準備すれば良

	いのではないか。例えば学童やPTAの方は一番わかっていそうだから、どういう風に人を集めて誰に相談するのか提案していただいた方が良い。
事務局	対象とやり方がほぼ決まってきたので、インタビューはグループ形式ということで。
委員	自由発言ばかりではなかなか答えは出ないけれど、はじめに設問を用意しておくなどしておかないといけないと思う。
事務局	次の会議で、どういう形でやるのかというものを準備しておくのでご意見をいただきたい。調査内容について、具体的な案があればご意見をいただきたい。
委員	障害にある方と、ネットワークでPTAと子ども会、学童、高校生の本人の3本でいく。
委員	高校生には、成人に近い年齢なので、墨田区の好きなどころなど明るいところも聞いてみたい。墨田の強みを聞いてみたい。
事務局	自分が育ってきた過程で、墨田区があなたに与えたものは何ですかというような。
委員	高校生になって、こういうものがあって良かったとか、役に立ったとか、励みになったとかということを聞くと良いのではないか。
委員	高校生の時にこういうものがあれば良かったなど、聞いた方が良い。
委員	高校生はどう口火を切るかが課題。
委員	匿名性を確保して、本音を聞けるような形をとれると良い。
事務局	基本的にはインタビュアーはコンサルとするが、対象者が多くなっているなので、可能であれば、委員の方も担っていただくことはどうか。
事務局	今後親会議決めていくが、決まり次第、協力をお願いすることも出てくるかもしれないので、よろしく願いしたい。
	(閉会)

次回評価指標検証 WG 開催予定

日時：平成 28 年 5 月 18 日（水）午後 18 時 30 分～

以上